

## 保坂市長の就任時と現在の市役所職員の変化は

**市長**▶ 接遇向上を自主的に進めようという姿勢を感じる

**坂本** 自治体運営における職員のあるべき姿について聞く。保坂市長が就任して2年半が過ぎるが市長就任時と現時点で、本市役所はどのような変化があったのか聞く。

**市長** これまでの変化の一部を紹介する。サービス向上の取り組みとして職員が「窓口サービス向上アンケート」を始めるなど、接遇向上を自主的に進めようという姿勢を感じている。今後、市民から「市役所の職員は良くなった」と感心されるよう、これまで以上に職員の変化を促していく考えである。



東日本大震災復興祈願「日本を元気に応援団」  
(6/25 竜王駅北口で開催)

## 保坂市長が考えるこれからの甲斐市像は

**市長**▶ 「農業と教育のまち」であり、実現のため鋭意取り組む

**坂本** これから人口減少が進み、税収が落ち込むと予想される中で、いかに本市に住居を構えてもらうかが喫緊の課題である。これには、魅力があり特色のある「まちづくり」をしていかなければならないが、思いの部分で市長が考えるこれからの甲斐市像は。

**市長** 私の甲斐市像は、「農業と教育のまち」である。「農業」は、人が生きていく上で必要であり、また、「まちづくり」は「人づくり」であり、人材が育たなければ「まち」は発展しないという考えで「教育」、この2つが私の「まちづくり」の理想である。この実現に向け「だれもが甲斐市に住みたくなるまち」そして「住み良いまち」になるよう鋭意取り組む考えである。



■ 甲斐クラブ  
坂本 一之 議員

## 山県大式での地域おこしの展開は

**市長**▶ 大式<sup>イコール</sup>＝「学問・教育」のイメージで推進

**坂本** 郷土史をひもとくまちづくりという観点の中で、先日、山県大式で地域おこしという報道がされたが、今後の展開を聞く。

**市長** 庁内プロジェクトでは、山県大式イコール学問・教育というイメージを地域資源ととらえ、今後、大式を広く認知させる取り組み、各分野での具体的な生かし方、観光や交流、ブランドなど外部への発信に向けた取り組みを順次、具体化する考えである。